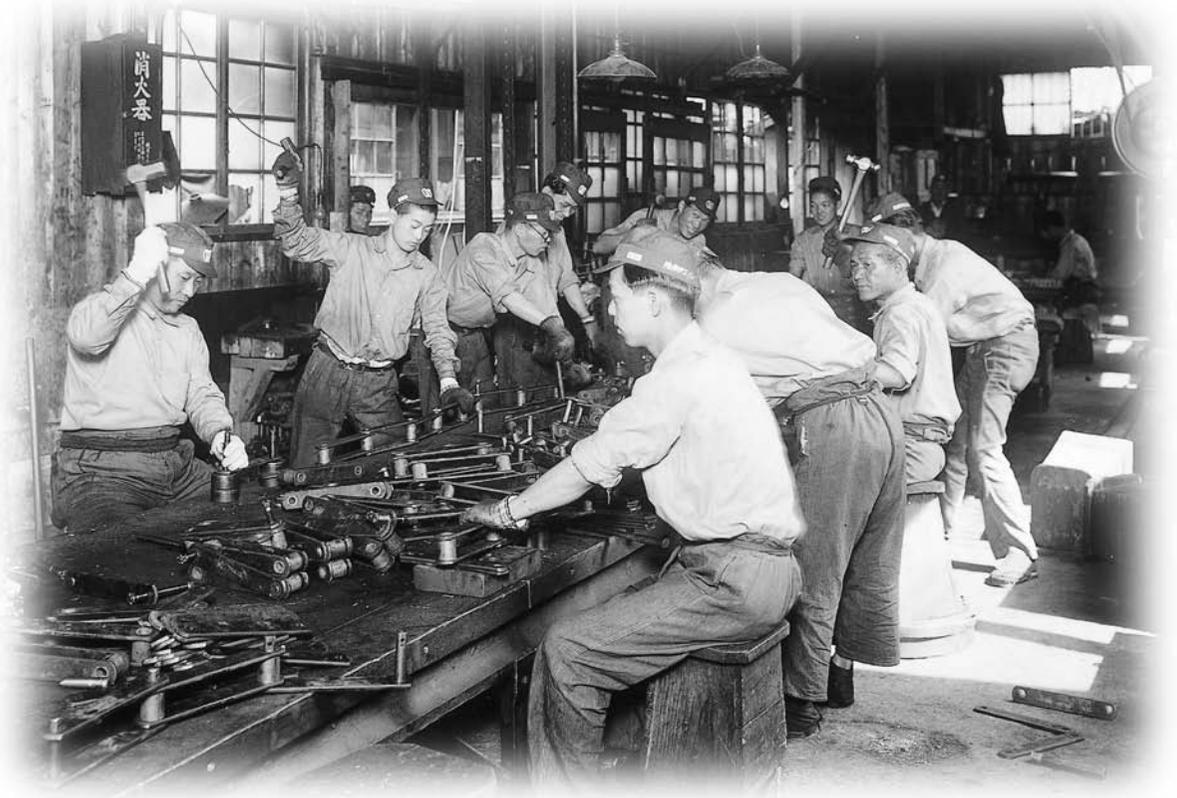


変革とチャレンジ

漫画で
読む

椿本チエイン100年の軌跡

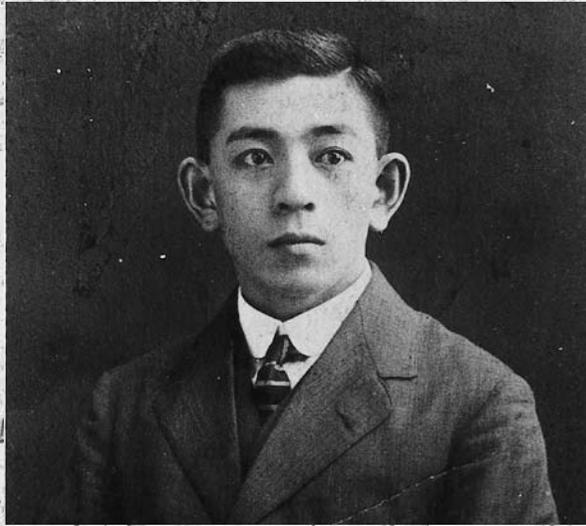
- | | | |
|-----|--------------|-----------------------|
| 第1部 | 1890(明治23)年～ | 椿本チエイン創世期 |
| 第2部 | 1947(昭和22)年～ | 戦後復興とともに歩み、時代を先駆ける |
| 第3部 | 1967(昭和42)年～ | 視点は世界へ…国際企業をめざす |
| 第4部 | 1985(昭和61)年～ | 成長と苦難の時代を乗り越え、さらなる飛躍へ |
| 第5部 | 2009(平成21)年～ | 創業100周年、さらにその先へ |



第1部

1890年～1945年

【樁本チエイン創世期】



1890年

樁本説三、大阪市に生まれる。その九日後に父が逝去、母方の親類に寄宿し、母の手ついで兄三七郎とともに育てられる

1912年

神戸高等商業学校を卒業、内外綿(株)に入社

1915年

内外綿(株)上海支店へ転勤

1917年

大阪府西成郡豊崎町南浜に樁本工業所南浜工場を創業。田村鉄工所長以下職人・機械設備を引き継ぎ、自転車チエインの製造を開始

1919年

樁本工業所を樁本商店と改称、兄の三七郎を所主に、自ら支配人となる

1921年

第次世界大戦後の反動不況で自転車用チエイン暴落外国のカタログにヒントを得て、機械用チエインの製造を思い立つ

1923年

台湾の製糖用チエインを受注

1928年

自転車チエインの製造をやめ機械用ローラチエインの製造に転換

1929年

ローラチエインの総合カタログ(№0291)を編纂発行

1931年

販路開拓のため、朝鮮・満州へ山中一郎を派遣
海軍省指定工場となる

1937年

大阪市旭区鶴見町に樁本チエイン新工場の建設開始
大規模コンベヤプラントを初めて納入

1938年

私立樁本青年学校開校

1941年

資本金300万円の株式会社として新発足
第1回代理店会「樁の会」開催

1942年

南浜工場閉鎖

1945年

終戦。米進駐軍、第二工場を接收

1923(大正12)年

1917(大正6)年の創業以来
自転車チェーンの製造で
順調に業績を伸ばした
椿本商店にも
第一次世界大戦後の反動不況の
荒波が押し寄せていた



所主・椿本説三(32)

このまま
ではいけない……

自転車用チェーン
だけでなく、もっと幅広い
商品を扱っていかなければ
いずれ行き詰まってしまう



そういえばこの前
紡織機用部品の
売り込みに行った
とき……



紡績工場の給炭機には
外国製のチェーンが
いろいろ使ってたな

よし！
海外のチェーンカタログを
取り寄せてみよう



所主に
国際便が
届いてますよ



お！
やっと来たか！！



これは……!

チエーンにはこんな
たくさん種類と
用途があるのか……

機械工業の遅れて
いる日本も機械用
チエーン需要が
拡がる時代が
必ずやってくる!

機械用チエーン
の種類と用途を
知ってもらう
ためには

カタログを見て
もらうのが
一番だな

うちでも
この分野に
進出するぞ!!

はい!

説三自ら写真を
切り貼りし、徹夜で
カタログを作りあげた

そこには、ただ製品を
知ってもらうこと以外に、
チエーン用途の多様性を
周囲に広める意味も
込められていた

1924(大正13)年
台湾の製糖会社から
砂糖きびを製糖機に
送り込む大形チエーン
(ケーンキャリア用チエーン)
の注文を受け納入

その後、農商務省より
米穀倉庫の米搬入
コンベヤ用の
チエーンを受注した

海軍省は今
戦艦兵器の機械力
拡充に力を入れて
いるだろう

なんとかうちの
製品納入の道を
切り拓けないものか…

しかし海軍は
購買名簿に登録
されている業者で
ないと物品購入
しない決まりに
なっているわけ
でしょう

とにかく
海軍省に名簿
登録願いを
出してみる！

そして
できる
限りのチャンス
をつかむんだ

説三は
上京のたびに

海軍省に出向き熱心
な嘆願を続けた…

何度も
何度も
何度も…

おれんじおれんじ
おれんじおれんじ

こうした努力が実を結び
1931(昭和6)年
海軍省指定工場に
認可された

やった

アッ

ついに
認可が
おりたぞ！

くしくも兄、三七郎が
死去して2カ月後の
ことだった

やったぞ！
兄さん…

さあ
これからが
頑張り時だ！

単に海軍の
仕事を受注する
だけじゃない

これを機に
機械用のチーン専門
メーカーとして全国に
名を知られていくように
するんだ!!



ふむ



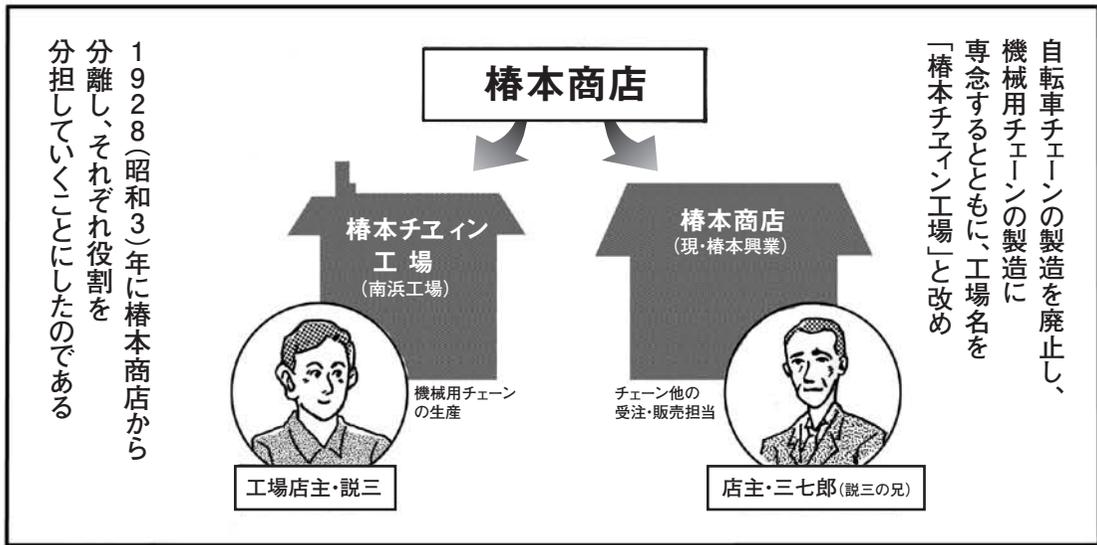
なんとか機械用
チェーンの生産がうまく
軌道に乗ってきたな…
そろそろ会社の
形態も変えていくか！



さらに

石炭運搬のバケットエレベーター用
コンベヤチェーン、
水門用捲き揚げチェーン
ガンリン機関車用ローラチェーン
などを次々に納入

売上は順調に推移し、
業績も向上していった



しかし、
満州事変を契機として
国家予算の膨大な
軍費が一般産業界を
潤すようになっていた



そして
「樫本チェーン製作所」
と名称変更した
1929(昭和4)年頃
世界恐慌によって
産業界は極度の
不況に陥った…

そして説三は
横須賀・呉・佐世保・
舞鶴などの海軍工廠を
次々に歴訪して
精力的な活動を続け…

改良を重ねた
揚弾薬機用チエーンを
中心に、海軍では樁本製
チエーンが独占的に
採用されるまでになった

新製品や従来品の
品質向上も
順調にいっている
ようだ

なんとといっても
信用が高まっている
のが大きいですね

これからは
外国製に負けない
国産の樁本製
チエーンをもっと
定着させていくんだ

これらの工場は
まだ輸入機械を
使用している

「煙突のあるところ
生産工場あり、
生産工場あるところ
必ずチエーン需要あり」
としてセールス活動が
積極的に行われて
いったのである

すべて訪問して
次回のチエーンの
取り換え時は
ぜひ国産の樁本製に
してもらおうんだ

そしてその活動は
1931(昭和6)年
からは朝鮮・満州・台湾
にもおよんでいった

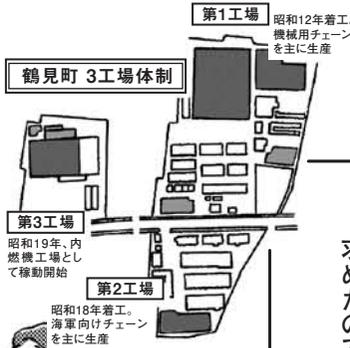
フロ屋の
エントツカあ

かっさつ

1933(昭和8)年
南浜工場が火事となり
新しい設備の
拡張を迫られた

ゴーツ

そして復興後、
拡張余地を
鶴見町に
求めたのである



1938(昭和13)年
鶴見時代の
幕開けの年になった



そして当時、
中国北京郊外の
蘆溝橋で火を
噴いた日中
戦争がのちに



大平洋戦争へと
拡大し日本全体
が戦時一色に
なっていく時代
背景であった

1931(昭和6)年
の生産高20万円から
7年間で221万円

11倍も躍進を
遂げてきたんだ

もう
今までの
ような単なる町工場では
なくなる!

近代企業と
して規模が
拡大して
いくん
ですね

大村利一
(後の3代目社長)

そうだな

こうして
1941(昭和16)年1月
「株式会社 椿本チエン製作所」
として組織変更が
行われたのである

営業面も
徐々に充実
台湾・東京・大阪・
九州・札幌に
営業所または
出張所を設置

1944(昭和19)年
には光(広島県)・呉・
横須賀・佐世保・
大分にも出張所を
設置した

販売代理店も
1941(昭和16)年
には30店を超える
までになっていた



社長就任

戦火は太平洋全域に
広がり、生産活動は
ますます苛烈を
極めていった

サイレント
チエーンが発注量が
また増えたのか

陸軍トラック
エンジン用
ですね

航空機用の
注文もかなり
増えています



原材料の調達が
難しいな



しかも直接関係の
ないトラクター用
ガソリンエンジンの
製造も海軍から
発注が来ている

これは当社の
生産能力では
無理です



何とかしよう
とにかくできる限り
とにかくできる限り
要求に応じていくんだ



この緊迫した情勢の中
1945(昭和20)年3月
東京大空襲により
樺本東京営業所が全焼

次いで6月
大阪大空襲で
大阪営業所も
同様の運命をたどった

第二工場の
防空壕がB29の
襲撃でやられた!?



何だっ!?



本社で生産に従事していた動員学徒と樺本青年学校の生徒も含まれていたとのこと



このまま爆撃が激しくなってくるとなると…

工場の疎開も実行に移していかなくては



しかし、その後の連合国のポツダム宣言受け入れによる日本の無条件降伏によって、すべてに終止符が打たれることになる

日本全体が荒廃と混乱の中一からの出直しを余儀なくされていたのである

樺本チエイン製作所の復興への新たな挑戦が始まる



1929年

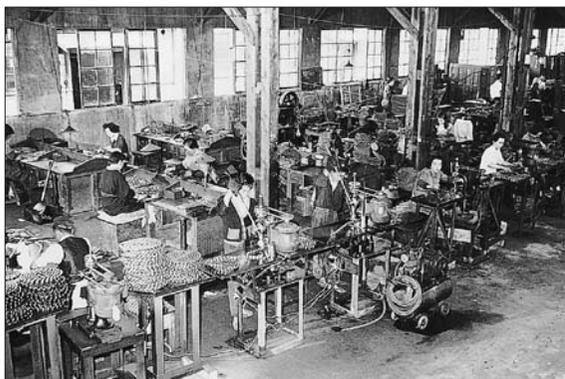
■ 総合カタログの制作に着手

樫本説三氏はカタログの役割を重視。海外のカタログを参考にして、80ページ以上もある布表紙のローラチェーン総合カタログを完成させた。欧米の新製品を網羅し、業界の注目を集めた(1930年に発行)。

1931年

■ 海軍省の指定工場になる

海軍へチェーンを納品するためには、購買名簿への登録が必要となる。そのため、説三氏は熱心に海軍省に通って嘆願し、海軍省指定工場となることができた(写真は指定工場を祝っての園遊会)。



1938年

■ 鶴見町へ本社を移す

南浜工場が手狭となったため、大阪市旭区鶴見町(現在の鶴見区)に1万平方メートルの土地を購入し、新しい工場と本社を建設。工事は5年の月日を要して完成した(写真は鶴見町第1工場の組立工場)。

1945年

■ 戦時下の生産活動

第二次世界大戦が激化するとともに、航空機用チェーンの注文も増加。終戦直前には軍の月産1万フィート増産要求に対し、月産7000~8000フィートを生産した(写真は航空機用チェーン)。

